

新たな10年に向けて



静岡県立静岡がんセンター 病院長
上坂 克彦

朝夕に、秋の気配を感じる時期になりました。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏は新型コロナが猛威を振るい、多くの医療機関や介護施設が大変困難な状況に直面しました。静岡がんセンターでもクラスターが発生し、患者さん、県民の皆様にご心配をおかけしました。あらためてお詫び申し上げます。多くの職員が自宅待機となる中、残った職員が協力し合いながら、外来、入院、手術等、なんとかがん医療の制限をすることなくクラスターを乗り越えることができました。9月には、感染の波は徐々に落ち着きをみせていますが、今後も院内感染には細心の注意を払いつつ、がん医療の発展に努力を続けてまいります。

前回の「やまびこ」でもお知らせしましたが、静岡がんセンターは9月6日で開院20年を迎えました。振り返ってみると、20年前には予想もしなかった大きな変化・進歩を遂げてまいりました。開院当初は、まだ腹腔鏡手術が緒についたばかりでしたが、現在では年間500件以上のロボット支援下手術を行うようになりました。特に直腸がんのダヴィンチ手術は、全国1位の件数となっています。薬物療法では、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬の開発が急速に進み、さらに2020年からはがんゲノム医療中核拠点病院として、遺伝子パネル検査を用いたprecision medicineを進めています。放射線治療においては、開院当初から有する陽子線治療に加え、高精度のIMRTなどの最新機器を整備し、放射線・粒子線治療の年間治療患者数は全国3位に位置するようになりました。よろず相談、患者家族支援センターを中心に患者サポート体制を充実させ、「治し、支える」がんセンターとなるべく努力を重ねてきた20年でした。



次

の10年には、AIやDXがさらに加速度的に医療を変化させていくことでしょうか。しかし、どんなにDXが進んでも、医療の本質の一つは「癒す」ことであることに変わりありません。静岡がんセンターは、患者さんを支える姿勢を一層大切にしつつ、次の10年にチャレンジしていきたいと思っています。皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

もくじ CONTENTS

● 病院長挨拶…………… P1
● 副院長の紹介…………… P2

● しずがん院内アート探訪…………… P2
● 特集:静岡がんセンターの化学療法・支持療法… P3
● 地域医療連携室からのお知らせ…………… P4

当院では、副院長の職務として各診療科や部門の業務に加え病院全体の方針決定や運用の責任者としての役割を分担しています。今年度新たに2名の副院長が就任しましたので、ご紹介します。



つぼさ やすひろ
■ 坪佐 恭宏 副院長

皆様、平素より大変お世話になっております。2022年4月より副院長職とともにRMQC室長(医療の質・安全管理室)の任も仰せつかっております坪佐恭宏と申します。

RMQC室では医療事故や医療過誤を未然に防止し、安全安心な医療を提供できるように様々な業務を行っています。毎日のように起こるインシデント・アクシデントや手術後の続発症などについてその検証を行い原因究明し対策を立てています。さらに患者さんやそのご家族から貴重なご意見をいただくことも多々あります。時には大変厳しいご意見もございしますが、個々のご意見を真摯に受け止め診療業務の改善に活かすようにしております。RMQC室の業務を顧みて感じるのには医療安全にはゴールがないということです。地域の医療関係の皆様信頼していただけるように、また少しでも患者さんの安全に寄与できるように努力を続けてまいります。なお一層の静岡がんセンターへのご指導ご鞭撻をお願いいたします。



いしだ ゆうじ
■ 石田 裕二 副院長

当院との連携に感謝申し上げます。

この度小児科部長としての役職に加え、副院長および感染症対策室長を拝命いたしました。がんセンター開院以来、小児がん、若い人(AYA世代)のがん診療、親ががんに罹患した子どもたちの支援を行なってきました。小児がん診療は、トータルケアと呼ぶ、生活と家族を大切にしたい診療を理想としています。小児がんの患者さんにとって、がん専門病院の高度ながん診療施設が必要です。がんセンターも、この数の少ない希少がん診療から多くのことを学んでいます。成人のがん患者さんも、希少がんと同様に、個別性への対応は重要で、希少がんから学んだ経験を活かせればと思います。

当院は、がん専門病院としての強みを持っていますが、一方で、連携病院の支援無くして、トータルケアは成立しません。『患者さんの視点を重視した連携』を目指して、地域の幅広い医療者の皆様と、より良いがん診療を実践したいと思います。

しずがん 院内アート探訪

このコーナーでは静岡がんセンター庁舎の院内アート作品をご案内しています。今回は2006年6月に寄贈いただいた彫刻をご紹介します。



ながれ まさゆき
「流 政之」 彫刻「EELA (イーラ)」

【作家略歴】 1923年(大正12)年長崎生まれ。石の研磨した面と割った面をそのまま生かす「割れ肌」という独自の技法で注目を集め、2001年9月11日米中樞同時テロに遭った世界貿易センタービル前に彫刻「雲の砦」を制作したことで知られています。

この彫刻は2006年6月に当院のひだまりラウンジに設置されました。

作品は高さ2.2m、重さ1.7t、黒御影石を使い、角度によって祈りをささげる女神にも、子供を抱く母親にも見え、作者は「この彫刻に触れて癒しを感じてほしい」と述べています。

ひだまりラウンジで当院の患者さん達を力強く、温かく見守っています!



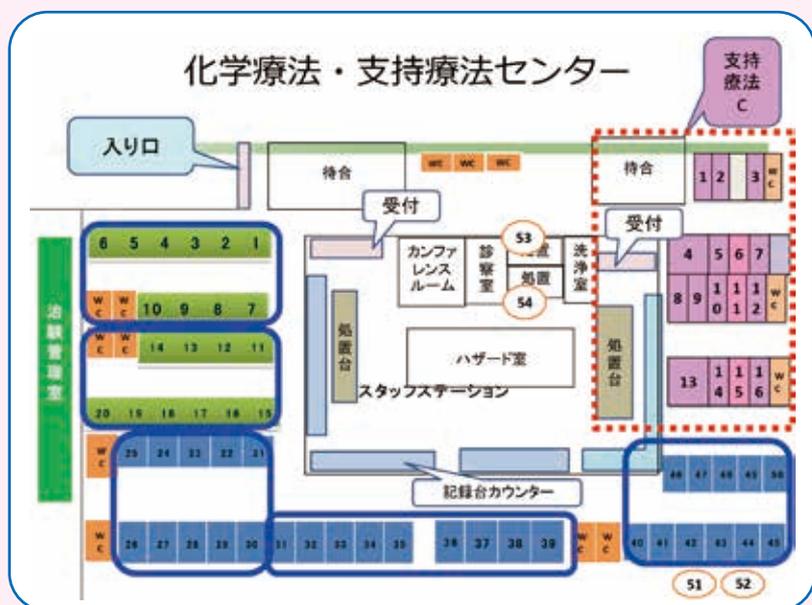
静岡がんセンターの 外来化学療法・支持療法

化学療法・支持療法センター 看護師長
がん化学療法認定看護師

柳田 秀樹

化学療法センターでは毎日130名前後の外来薬物療法を受ける患者さんの対応を行っています。治療戦略の進化により多剤併用療法の投与管理が以前よりも複雑になってきており、それぞれの薬剤に関連する有害事象への早期発見、早期対処が非常に重要になります。自宅での生活を考慮したセルフケア指導や薬剤指導を看護師、薬剤師が担っています。薬物療法における食欲不振など栄養に関する相談は常駐栄養士が担当します。

支持療法センターでは毎日80名程度の患者対応を行っています。自宅での生活を望む患者さんが抱える苦痛症状の緩和を目的とした治療、処置（胸腔穿刺や腹腔穿刺など）や病気の診断や病状を評価するための侵襲を伴う検査を実施しています。苦痛症状を抱える患者さんやご家族は不安を訴える方も多いため、訴えを聞き取り必要に応じてがん看護専門看護師や認定看護師、臨床心理士等の専門職種と連携をとり支援しています。



化学療法センター看護師
抗がん剤点滴管理



栄養士による栄養指導



薬剤師による薬剤指導



支持療法センター看護師
自己注射指導



化学療法センター
当番医師

地域医療連携室よりお知らせ

【研修情報】

〈2022 年度臨床腫瘍学コース〉

臨床腫瘍学コースを毎月開催し、地域の医療従事者の方々にも公開しております。是非ご参加ください。(オンライン受講可)

会場：静岡がんセンター 管理棟 4階 研修室 1

開催時間：18:00～19:30

詳しくは、静岡がんセンター 総務課 企画人材班 TEL:055-989-5222(代)までお問合せください。

日時	テーマ	講師(敬称略)
10/21	おさえておきたい臨床薬理学の基礎知識	薬剤部 篠 道弘
10/28	最新のがん放射線治療	放射線・陽子線治療センター 尾上 剛士
11/11	遺伝子パネル検査	ゲノム医療支援室 鈿持 広知
11/18	がんの脳転移の治療・ケア	脳神経外科 三矢 幸一
11/25	がんの骨転移の治療・ケア	整形外科 村田 秀樹
12/2	がん免疫療法とは？(必要な知識、ワクチン研究紹介など)	研究所 秋山 靖人
12/9	免疫チェックポイント阻害薬	村上 晴泰/がん免疫薬物療法マネジメント部会
12/16	がん患者の口腔ケア	歯科口腔外科 百合草 健圭志
1/6	最新の消化器がん薬物療法	消化器内科 山崎 健太郎
1/27	がん患者のリハビリテーション	リハビリテーション科 伏屋 洋志

〈がん専門看護研修会報告〉

がん専門看護研修会を開催しました。今年度は当院の医師1名と看護師3名で「がん薬物療法の最前線」について講演を行いました。静岡県内に勤める看護師の方105名のご参加をいただきました。

2022年8月27日(土)13:00～16:30

オンライン研修 (Zoom:ウェビナー)

テーマ:「がん薬物療法の最前線」

- ①昨今のがん薬物療法について (呼吸器内科 和久田一茂)
- ②新たな薬物療法における副作用と副作用症状マネジメント (がん化学療法認定看護師 山本れん子)
- ③治療選択における患者・家族の意思決定支援 (がん看護専門看護師 福崎真美)
- ④BSC(Best Supportive Care)移行期の患者・家族ケア (外来看護師長 下山美智子)



和久田一茂



山本れん子



福崎真美



下山美智子

編集 後記

静岡がんセンターの機関紙「やまびこ」の編集責任の命を前任者から引き継いだ時の事です。私が開口一番「えー！編集後記かけませんよ」と愚図ると、前任者は「日常生活の中で普段からいいネタを探しているよ」と教えてくれました。コロナ禍の3年間窮屈で変化のない毎日だと不平・不満を言うのか、それとも日常の小さな変化に「いいね！」をつけて楽しんでしまうのかは、心持次第だと改めて感じたありがたいお言葉でした。それからというもの夕暮れ時の山の稜線、大きな満月、芝生から一斉に飛び出る雨蛙等必要以上に感性を磨いている自分に「1いいね！」を付けました。

何かと不慣れではございますが、前任者に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。



発行 静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター 地域医療連携室

〒411-8777 駿東郡長泉町下長窪1007 TEL 055-989-5222(代)

発行責任者 地域医療連携室長 小笠原 環